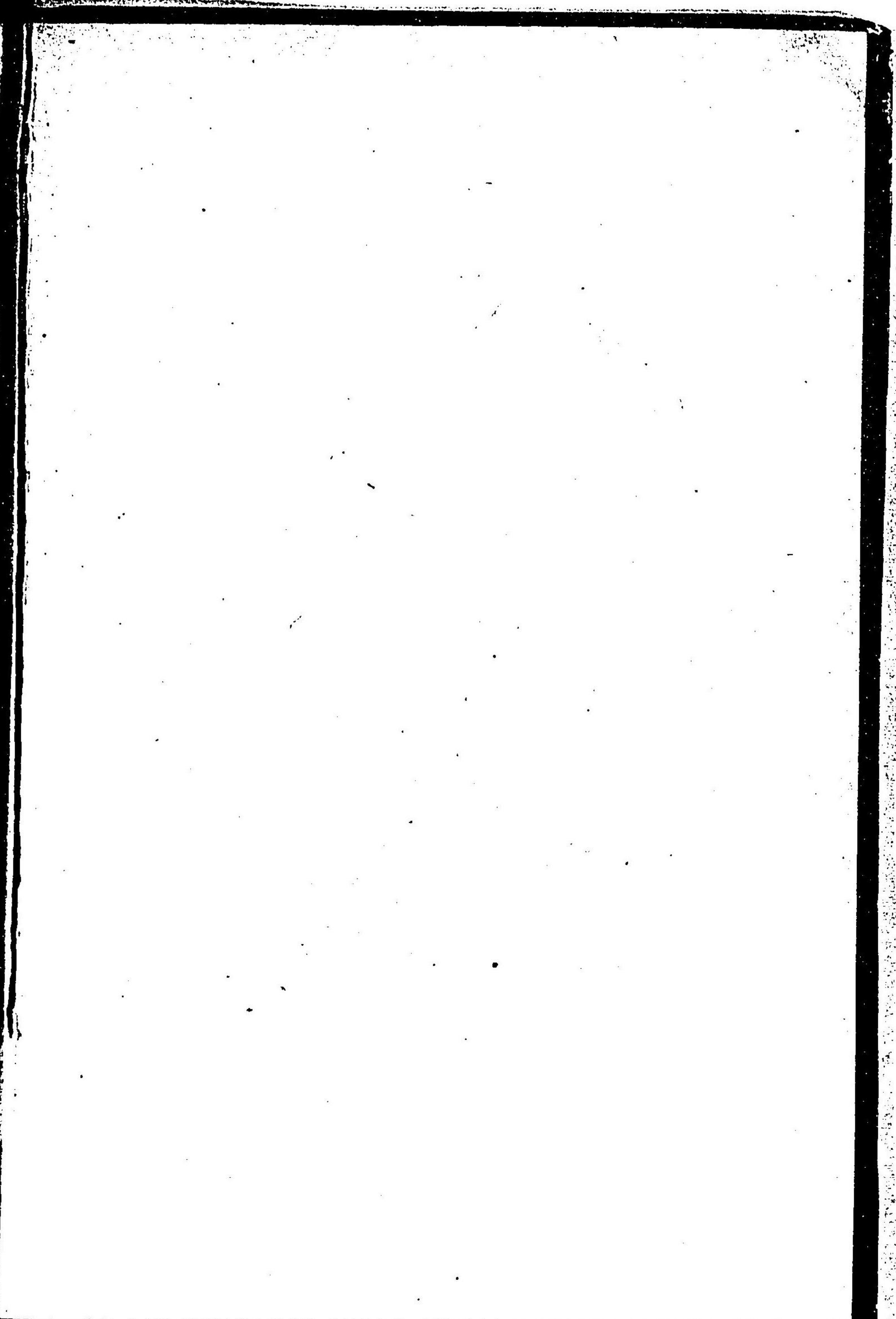
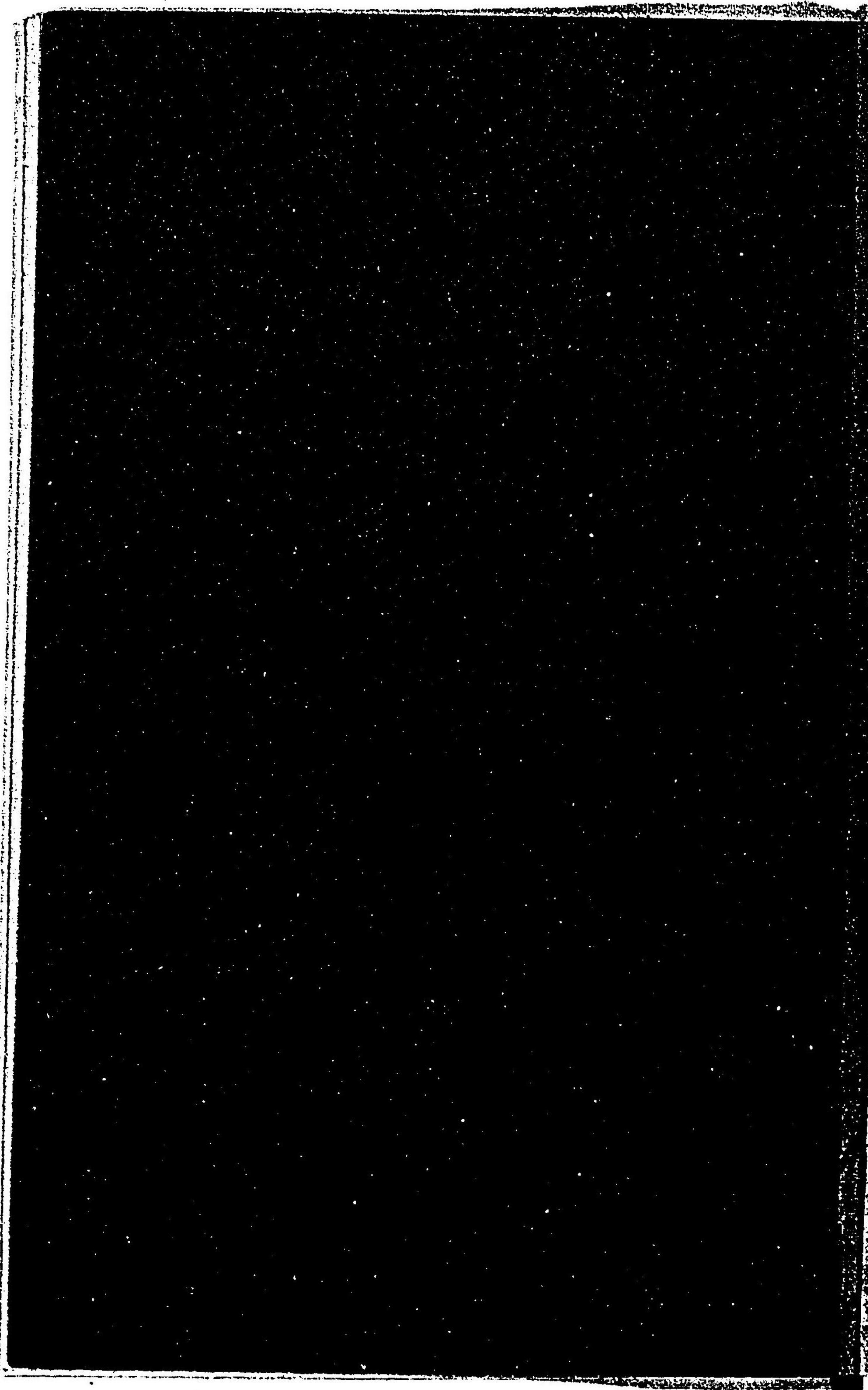


103
113

祝
壽
圖
卷
三







序

子然我服拔劍而舞。見于家譜。

門會項在拔劍起舞。項伯亦拔

劍起舞。晉王如請王後。因閑宮。

清劍舞為歡。見于史記。晉書。唐人

詩。有。白泉太守能劍舞。句然

則世。有劍舞。已。防于周秦。其。至

舊矣。夫。詠歌。舞。踏。以。涵。養。其。性。情。



日不孝其血脈古者小學教國之
其方焉。乃才合治世大行。天下昇平
母之子。民皆不知兵革之為何物。於
是少年子弟不能母。流于文弱之弊。
故取救濟其弊。無善於劍舞也。同
人志士。歡樂之會。優遊之宴。痛癢
慨。快之。符。拔三尺之秋。水。扼腕。蹙
裳。以舞。英氣。勃。雄壯。活潑。使人有

見子。盤。項。在。諸。子。于。今日。之。想。焉。為
古人。養。其。性。情。血。脈。之。才。亦。不。外。于
此。矣。近日。劍。舞。大。行。于。世。至。有。刻。其
才。清。以。傳。者。夫。可。謂。盛。也。人。福。井
君。又。有。是。著。東京。書。肆。萬。山。堂。主
人。如。板。以。以。問。于。世。來。乞。余。序。余
嘉。其。有。益。于。名。教。乃。序。與。之。不。為。世
之。閱。者。猶。依。以。養。以。所。謂。我。日。本

眼。而守心于子路。項在諸子中否。
 明治二十六年仲秋

神原健吉撰



泊堂川上愿書



白髮蒼顏萬死餘。平生藥氣未全除。
 寶刀難染痒夷血。却懷故山舊草廬。

白髮蒼顏萬死餘

蹲リテ右足ヲ延ヘ

両手ヲ上テ白髪ニ

ナリタル様ヲ示シ

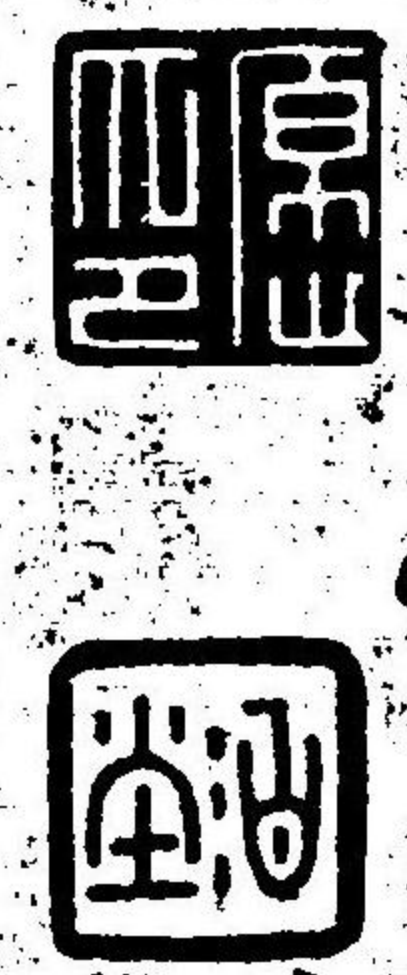


髻。而子。心于子。路。項。在。諸。子。年。否。
 明治二十六年仲秋

神原健吉撰



洎堂川上愿書



白髮蒼顏萬死餘。平生藥氣未全除。
 寶刀難染洋夷血。却懷故山舊草廬。

白髮蒼顏萬死餘
 蹲リテ右足ヲ延ヘ
 両手ヲ上テ白髮ニ



ナリタル様ヲ示シ

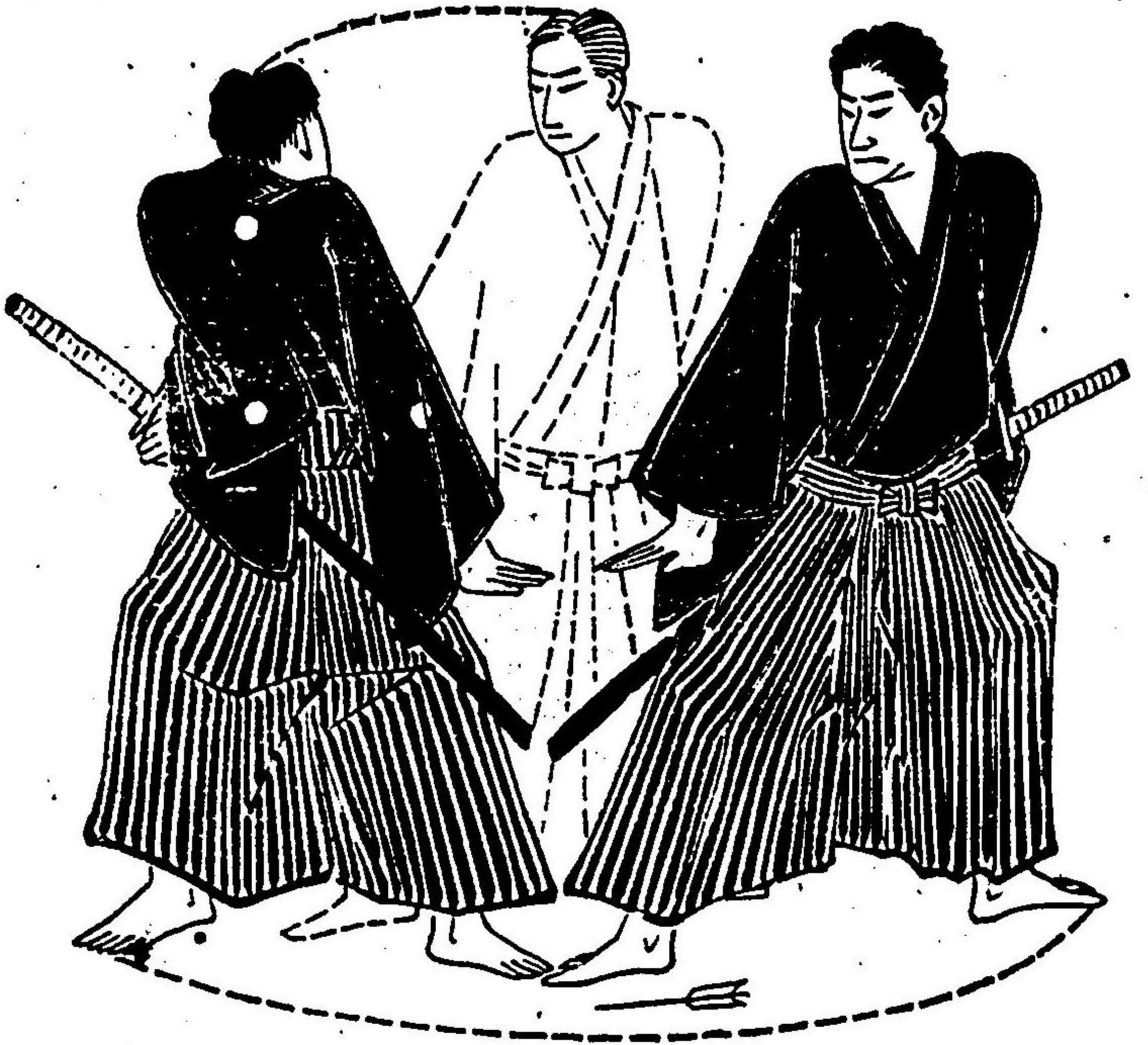
平生豪氣

勇サマレク

立上リ右へ

活潑ニ廻リ

テ



未ダ全除カズ

亦蹲リテ右足

ヲ延べ肩ヲ怒

ラシ、両手ヲ膝

ニ置キ餘勇ノ

アルトナ示シ



寶刀染ガタシ

刀ヲ拔キ右手ニ持
テ鐔元ヨリ尖先ヲ
眺メ

洋夷ノ血

ト立上リ血ヲ振ヒ
落ス心ニテ打振リ
テ鞘ニ納メ



却テ懷フ故

山舊草廬

徐々ト座シ手
ヲ翳シテ向テ
眺メ思有リ氣
ニ思案ノ体ア
ルベシ



浮雲やかゝらばかゝれ世の中の
鏡にうつる秋の夜の月

浮雲や

居合腰ニテ下ヨ
リ上エ目ヲ注ギ
ナガラ左エ見廻
シ膝ヲ平手ニ打
チテ



かゝらばかゝれ

ト刀ヲ抜キチ
ガラニ三步後
エ退リ

世の中の

ト刀ヲ以テ指
示シ



鏡にうつる

刀ヲ鏡ノ心

ニテ顔ヲ寫

シ



秋に夜に月

刀ヲ納メ手ヲ

翳シテ遠ク望

ム



あし原あしはらの

両手りょうてヲ袖そでノ中なか

ニテ合掌あひぎらみシ徐ゆる

々ら三四歩さんしよほ進すすミ



其その俤あしなとやまと杖つゑ

勇いさマシク刀やヲ鞘さや

トモ抜取ぬきとリ圖ずノ

如ごとク杖つゑニツクト

同時どうじニ右足みぎあしヲ踏ふ

出いスベシ



盡す

ト立上リ圖

ノ如ク構エ



心と

ト後ト向キ

ガチ差シテ



孤軍奮討
 帶刀シテ座
 = 出デテ左足
 ノミ一歩退
 テ拔刀ス眼
 ナ刀ノ尖先
 = 注グベシ



神は守ふむ
 蹲リ左ノ膝
 ナ立テ右ノ
 手ニテ拜ス
 ベシ



圍ヲ突テ還ル

刀ヲ真面ニ振

翳シ五六歩前

ニ急進シ青眼

ニ構エザリテ

リ跡透ルベシ



壹百里程

左ノ足ヲ延ベテ蹲

リ右手ノ指ヲ折リ

數へ



壁間ヲ疊

ト両手ヲ張リテ掌

ヲ下ニシ水ヲ泳グ

如キ状ヲナスベシ



我劍ハ既ニ折レ

右手ニテ刀ヲ杖トシ

向テ望ミ左足ヲ上テ

刀ノ中央ヲ蹴リ倒ス

ベシ刀ハ手ヲ離スト

知ルベシ

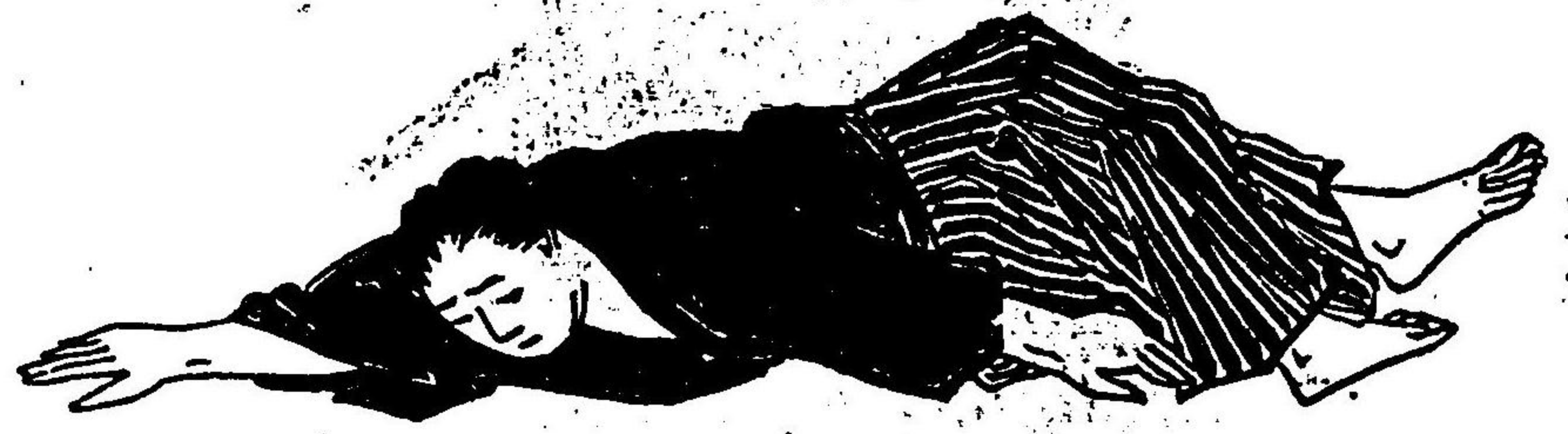


我馬ハ倒ル

右手ヲ延ベ

疊ヲ打テ倒

ルベシ



秋風屍ヲ埋ム

両手ヲ張りタル

マ、倒レル勢ニ

前ニ進ムベシ



故郷ノ山

右エ起上リ左足ヲ

延ヘテ蹲リ右手ヲ

翳シ向ヲ眺メル状

ヲナスベシ



鞭聲肅々

左手ニ鯉口ヲ寛ゲ

馬ニ鞭ヲ加フルガ

如ク右手ニ臀ヲ打

テ前ニ歩ヲ進ムベ

不識庵擊機山圖

鞭聲肅々夜過河。曉見千兵擁大牙。
遺恨十年磨一劍。流星光底逸長蛇。



夜河ヲ過

右足ヲ後ニ引キ
両手ニテ両股ヲ
打テ袴ノ裾ヲ掲
ゲ眼ヲ下ニ注グ
ヘシ



曉ニ見千兵

蹲リテ左足ヲ投出シ
右手ヲ翳シ前方ニ眼
ヲ注ギ直ニ右手ニテ
半徑ヲ招キ見ル



大牙擁スルヲ

ト圖ノ如ク旗

ヲ持ツ様ヲナ

スベシ



遺恨十年

活潑ニ左足ヲ屈メ

右足ヲ投出シテ右

手ヲ上ヨリ下ス間

ニ指ヲ折り數ユベ

シ



一、劍ヲ磨シ

右^ミ手^テヲ以^{モッ}テ刀^トノ鞘^{カヤ}
ヲ拂^{ハラ}ヒ亦^モ左^{ヒダリ}ノ足^{タビ}ヲ
延^ノベ左^サ手^テヲ刀^トノ胸^{ムネ}
ニア^アテ刀^トヲ磨^マク様^{サマ}
ヲナス



流星光底

右^ミ手^テニ刀^トヲ捧^サゲ
天^{ソラ}上^{ウヘ}ヲ指^サシ徐^{シヅ}々^カ
地^チ下^カヲ指^サス

「眼^メハ常^{ツキ}ニ刀^トノ尖^{キバ}先^{サキ}ニ注^ソグ

ベシ」



長蛇ヲ逸ス

活潑ニ立上リ上

段ニ振翳シ飛込

テ斬下グベシ



落花紛々

無題 村上佛山
落花紛々雪紛々踏雪蹴花伏兵起
白晝斬取大臣頭噫嘻時事可知耳

右ノ袖ヲ握リ花ノ

降ヲ拂ヒ

雪紛々

ト雪片ヲ拂フノ状

ヲナシ左向トナリ

テ



雪ヲ踏ミ

身ヲ屈メテ右足ヲ

踏ミ

花ヲ蹴リ

一步飛込ミ



伏兵起ル

体ヲ屈メ鯉口寛ゲ

四方ヲ伺フノ状ヲ

ナス事伏兵ノ心ス

ヘシ



白晝切取

二三歩伺ヒヨリ

首打落ス様ヲナ

大



大臣ノ頭

ト切タル首ヲ

刀ノ尖先ニ貫

キ高ク捧ゲ示

ス様ヲ摸ス



噫嘻時事知ルベキノミ

刀ヲ擲テ歎息ノ

狀ヲナシ氣ヲ換

ヘテ

落花紛々雪紛々

ト最初ノ如ク舞

フベシ



或ハ恐ル天下多事之

ヨリ兆サシ

ト腕ヲ組ミ頭ヲ垂

レ考エルノ狀ヲナ

スベシ



逸題 大久保利通

残月 滴露 沾人 袂
 隙風 吹髮 覺秋 冷
 忽驚 大蛇 當道 橫
 拔刀 欲斬 老松 影

殘月

靜ニ右足ヲ踏出

シ中腰トナリ右

手ヲ延べ満月形

ヲ描キ



滴露人袂ヲ沾ス

右足ヲ後ニ引

右ノ袂ヲ絞ル

ベシ



曉風髮ヲ吹テ秋ノ冷

ナルヲ覺フ

左足ヲ左エ寄せ両ノ

平手ヲ両耳ノ後ヨリ

髪ヲ吹キ「ト前

ニ直下シ腕ヲ組ミ眼

ヲ下ニ注ギ寒氣ノ身

ニシムユナシスベシ



忽チ驚ク大蛇道ニ

當テ横ハル

活潑ニ右膝ヲ打テ

右足ヲ開キ、躰ヲ屈

メ右指ヲ以テ左ヨ

リ徐々ニ大ナル半

徑ヲ描クベシ



刀ヲ拔

平手ニテ柄下ヲ
急ニ打テ直ニ手
ヲ返シ柄ヲ握リ
居合腰ニテ刀ヲ
拔ク



斬ラント欲ス

左足ヲ延ベテ蹲
リ上段ニ振翳シ
眼ヲ左ヨリ徐々
ニ右ニ注ギ



老松ノ蔭

立上り右足ヲ

踏出シテ横一

文字ニ切ルベ

シ



兵兒歌

賴山陽

次至^{コト}至^ハ舒^ハ袖^ニ至^テ腕^ニ腕^ノ間^ニ秋^ノ水^ノ鐵^ノ可^ク斷^ル人^ノ觸^レ斬^ル人^ノ馬^ノ觸^レ斬^ル馬^ノ
 十八^ハ結^ス交^フ健^シ兒^ノ壯^シ北^ノ客^ノ能^ク來^ル何^レ以^テ酬^フ彈^丸硝^藥是^レ善^シ差^シ
 客^ノ猶^モ不^レ屬^ス愛^シ好^シ以^テ寶^刀加^ニ渠^ノ頭^ニ

衣ハ肝ニ至リ

眞面ヲ見テ兩股

立ヲ高ク擱ミ上

グベシ



袖腕ニ至ル

左ノ腕ヲ捲リ次

ニ右ノ腕ヲ延テ

袖ヲ絞リ上グベ

シ



腰間ノ秋水

先ツ鯉口ヲ寛ゲ

孤軍奮討ノ狀ヲ

ナシ刀ヲ拔クコ

ト圖ノ如シ



鐵斷ベシ

刀ヲ上段ニ振りカ

ザシ圖ノ如ク切下

ゲルナリ



人觸バ人ヲ斬リ

右手ニ刀ヲ提ゲ

左手ヲ延ベテ三

四歩進ミ乍ラ上

段ニ振翳シテ斬

リ込ムナリ



馬觸レバ馬ヲ斬リ

圖ノ如ク躰ヲ横ヘ

馬足ヲ切り拂フ状

ナチス



十八交ヲ結ブ

體ヲ圖ノ如ク構エ

右ノ平手ニテ膝ヲ

打チ徐々指ヲ折リ

數エ



健兒社

両手ヲ組合セ拜ス

ル様ヲナス



北客能來

北客ト左手ヲ延ハ

能ク來ルト胸ヲ打

ツペレ



何ヲ以テ酬ヒン

左手ヲ右腕ニ置キ

考ヘル状ヲナス



彈丸硝薬

左手ニ刀ヲ横エ小

銃ニ丸ヲ込ムル様

ヲナス



是膳羞

刀ヲ以テ銃ヲ覘フ

如ク構ユ



客猶屬壓セザレバ

刀ヲ座ニ擲テ左

手ニテ胸ヲ打ツ

ペ
ン



好寶刀ヲ以テ

右手ニ拔刀ヲ提ゲ

左手ヲ指スベシ



渠ノ頭ニ加ヘン

ト刀ヲ上段ニ

振翳シ眞向ニ

切下ルユト活

潑ナルベシ



逸題

細川頼之

人生五十恥無功。花木春過夏已中。
満室蒼蠅掃難去。起尋禪榻臥清風。

人生五十

右手ニテ扇ヲ杖ツキ

左ノ手ヲ後ニアテ

老人ノ歩行ヲ摸シ左

ノ手ヲ前ニ廻シテ指

折リ數ヘ功無キヲ耻ツ

ト左手ニテ頭ヲ搔クベシ



花木春過テ夏已ニ中ス

左足ヲ投出シテ蹲

リ左手ヲ延ベテ徐

々左右ニ二度フル

ベシ



満室蒼蠅

右手ニテ扇子ヲ拔

取り



掃へドモ去リ難シ

扇子ヲ開キ上

下ヲ煽グ状ヲ

ナス



起テ禪榻ヲ尋子テ清

風ニ臥ス

扇子ハ擴ゲタルマ

マ座ニ擲テ力ナク

臂ヲ枕トシ横臥ス

ヘシ



月落千

手拭ヲ両手ニ提

ゲ三足程前ニ進

ミ徐々座シテ右

膝ヲ立テ手拭ヲ

前ニ置ク

楓橋夜泊

張繼

月落烏啼霜滿天。江楓漁火對愁眠。姑蘇城外寒山寺。夜半鐘聲到客船。



鳥啼テ

頭ヲ垂レ手ヲ袖ニ

シテ鳥ノ翺翺状ヲ

示レ



霜天ニ満ツ

右手ヲ額ニ翳レ

テ空ヲ眺ムル状

ヲナス



江楓ノ漁火愁眠ニ對ス

右手ヲ枕トシ兩

足ヲ延シ徐々ク愁

眠スベシ



姑蘇城外ノ寒山寺

左ノ手ニテ座ヲ

打チ手拭ヲ擲ミ

直チニ立上リテ

二三歩アリテ右

手ニテ前ヲ指ス

ベシ



夜半ノ鐘聲

圖ノ如ク手拭ヲ

両手ニ持テ再三

鐘ヲ突クノ状ヲ

ナス

一



客船ニ到ル

両手ニテ手拭ノ

上端ヲ握リ下端

ヲ足ニ踏ヘテ櫓

ヲ漕グニ摸スベ

シ



東京市井の豊が見ゆる。あれハ市ヶ谷監獄署。堂々
 自由の益良雄が。囹圄に繋おれまゝ。おらぬ。悲憤慷
 慨血の涙。辛苦ハ勇士の常。おるぞ。困苦ハ國家の爲
 おるぞ。正氣頰髪又凛烈。今ハ空しく嘯くも。一朝出
 獄する時ハ。自由の大義を乗取て。正義を討べし反
 對黨。正義を討べし反對黨。

愉快々々

欽慕々々

東京市井よ

右ノ足ヲ延ベテ

脚



薨が見ゆる

ト手ヲ翳シ向ヲ望ミ

あれば

ト胸ヲ拍チ

市が谷監獄署

ト向ヲ指示ス



堂々自由の

ト立廣ガリテ圖

ノ如ク袖ヲ絞リ

益良雄が

ト亦左ノ袖ヲ絞

ル



固^ひ固^かに繋^つがれ

兩^り手^てヲ後^{のち}ニ廻^まシ

まゝなふぬ

ト二三^{さん}步^ふ後^{のち}トズ

サリ



悲^ひ憤^{ふん}慍^{いん}慨^{がい}

ト兩^り腕^{うで}ヲ組^くミ憂^{うれ}ヲ

粧^まヒ

血^ちの涙^{なみだ}

ト右^{みぎ}手^てヲ揚^あテ涙^{なみだ}ヲ

拂^ふヒ



辛苦は勇士の
常なるぞ

ト圖ノ如ク構エ百
感交モ至ルノ状ヲ

チ
ス



困苦は國家の
爲めなるぞ

急ニ活潑ニ刀ノ鯉口

チクツロゲ向チ白眼

ミ胸ヲ打チガ直立

スベシ



正氣

ト圖ノ如ク眞直

ニ立チ

頬髪

ハ圖ノ如ク双手

ニテ髯ノアル様

チナスベシ



又凛烈

ト双手ヲ張り兩

足ヲ廣ゲ勇シク

向チ白眼ムベシ



今イマの空カラしく

嘯ウソふくも

兩手ウツテヲ組ムミ思シ案アン

ニクル、様サマヲナ



一朝イツ出デ獄ゴクすゝ

時トキの

ト天テン日ジツヲ拜イハススル

様サマヲナス



自由の大義

に乗取て

両手ヲ張り兩足

ヲナルベク廣グ

ハシ



正義で討べし

ト大刀ヲ一文字

ニ抜キ離シ



反對黨

ト大上段ニ構エ

中段下段ニ切結

ブ様ヲナスベシ



正義で討つ

べし反對黨

刃ヲ引カッ

ギ向ヲ見込

ムベシ



日本男子の大偉業。福島中佐の遠征ハ。重き名譽を
 身ヲ擔ヒ。駿馬ヲ鞭ヲウチアセ。伯林城ヲ後ヨル
 シ。獨逸ヲ出テ露西亞ノ入り。百官叔女ノ迎遇。帝
 のおぼへ目出度テ。榮譽ノ貴碑ヲ輝シ。烏拉山頭馬
 と立て。歐亞二洲ヲ睥睨シ。颶風暴凍雪ヲ捲キ。人烟
 稀ヨ道モカク。猛獸險河ノ聲トとき。皮肉ヲ暴ス。艱
 難モ忽チ旭凍イダギヨク。歸朝ノ榮光鮮々ト。國旗
 と共ヨ彌ヤ高く。四海ノ溢る。英名モ萬代帝礎ノ
 恩澤ト。慕ハぬ者こそあるりけり。

愉快々々

欽慕々々

日本男子の大偉業

日本男子ト兩手ヲ
 握リ腰ニ當テ
 印ノ如ク手先ニあ
 やチ付ケ手ヲ
 ゲアナスナリ



福島中佐の
遠征の

福島中佐のト
ノ如ク遠征ト
ノ如クあやチ付
テスルナリ



重き名譽と

重き名譽ト胸
ヲ兩手にテ掩
ヒ一廻り廻り
テ次ノ圖ノ如
クナル



身に擔ひ

身ミよヨ擔タテひヒトト正ただ

面オモニニナナリリ圖エノノ

如トククああややナナ付ツ

テテナナススナナリリ



駿馬しゅんばに鞭むちと打う

ちちああととぐぐ

圖エノノ如トクク二ニ足ツ

三ミ足ツイイデデ馬ウニニ

乘ノルル心ココロ持モチチニニ

テテ廻マリリテテ止トルル

ナナリリ



伯林城とあそ

になし

圖ノ如ク後ヲ
見返ル様ヲナ
スナリ



獨逸と出て
露西亞に入る

圖ノ如ク①ハ
手ヲ右エ出シ
②ハ手ヲ左エ出シ
③ハ又右エ出シ
④ハ圖ノ如ク
後ヲ見テ勇敷
スルナリ



百官叔女の

百官ト圖ノ如ク

ナシ叔女ト手ヲ

開キ㊦ノ圖ノ如ク

クナスベシ



迎遇に

圖ノ如ク右手

ヲ上ゲ左ノ手

ヲ脇腹ニ當ツ



帝のおぼへ
 目出度くて
 帝のおぼへト
 三足斗り前へ
 出デ右手ナ
 出ナリ
 ス



榮譽の貴碑と
 輝し

榮譽の貴碑ト
 手ナ上ゲタル
 マ、膝ナツク
 ナリ



ナ エ 睥^ハ エ 歐^オ 睥^ハ 歐^オ
 リ 兩^リ 睥^ハ 手^テ 亞^ア 睥^ハ 亞^ア
 手^テ シ 睥^ハ 出^イ 二^ニ 睥^ハ 二^ニ
 ナ 出^イ 又^マ シ 洲^{シュ} 洲^{シュ}
 出^イ ス 左^ヒ 右^ミ 洲^{シュ} と



出^イ 圖^ズ 一^ヒ 乘^ノ 烏^ウ 立^タ 烏^ウ
 ル^ル ノ^ノ ト ル^ル 拉^ラ 立^タ 拉^ラ
 ナ 如^カ 廻^マ 有^ア 山^{ヤマ} 立^タ 山^{ヤマ}
 リ ク^ク リ 様^{サマ} ト 立^タ 馬^{ウマ}
 前^マ シ ニ 馬^{ウマ} と
 エ テ テ ニ



颶風暴凍雪と

捲き

颶風暴凍ト

足計リ後エサ

ガリ圖ノ如ク

両手ヲ開クナ

リ



人烟稀に道

もなぐ

圖ノ如ク向フ

遙ニ見渡ス

ナスルナリ



猛獸險河に

聲ととき

猛獸險河ト肩

ニカラヲ入レ

兩手ヲ擴ゲテ

猛ケキ有様ヲ

ナス



皮肉と暴す

艱難も

自分ノ胸ニ手ヲ當

テ脇ノ邊リヘ手ヲ

下ルト同時ニ㊦ノ

印ノ如ク指ヲサス

ナリ



忽ち旭凍い

さきよく

圖ノ如ク指チ

サシいさぎよ

くト旭ノ映ス

ル有様チナス

ナリ



歸朝の榮光
鮮々

圖ノ如クナシ

歸朝ノ途ニ就

キ我國ヲ見渡

ス心持チスル

ナリ



國旗と共に

いや高く

國旗と共に

○ノ圖ノ如ク

手ヲ上ゲ

いや高く

○ノ如クスルナ

○ノ如クスルナ



四海に溢る

英名も

四海に溢る

ト圖ノ如ク

印ノ手ノ如クナシ

○ノ手ニ到ル

ナリ



萬代帝礎の

恩澤と

萬代ト拜ナ

シ乍ラ一足左

ナ後エ引ナリ



慕はぬ者こそ

なかりけり

圖ノ如ク左足ヲ出

シ右膝ヲツキ右ノ

手ヲ上ルナリ



愉快



ト圖ノ如ク
① ② ③
形ヲニテ肩ト腰ニテ
釣合ヲトリ進ミ出ル
ナリ

欣慕



ト其儘進出タル通り
ノ形ニテ後へ引しと
やハニ終ルナリ

但シ此處ハ一人ニテモ又左右二人ニテモ三人ニテモ差闕ナシ且ツ數人出ル方面白シ



劍舞獨習圖解秘訣附錄

下通州偶成

奉勅單航向北京。黑烟堆裡蹴波行。和成忽下通州水。臥在蓬窓
夢自平。

大久保利通

無題

水濁無由濯我纓。行吟澤畔歎斯生。從今脫却人間事。賣劍買牛
自在耕。

前原一誠

心死人間萬事安。出門世路太艱難。從今默々林泉下。高臥清風
保衰殘。

書感

同

三尺壯刀凜莫干。龜文灼爍電光寒。半宵如遇荒雞叫。提向中原

試錯蟠。

登門馬里亞堡塞

中井弘

巴黎城郭一望看。十六炮臺戰跡寒。吟客登臨無限恨。歐洲猶未保平安。

伊太利

同

此是歐洲欲盡頭。七山樹色入吟眸。千年遺跡尋何處。城壁依然羅馬州。

巴里

同

凱歌門面佛王宮。樹影燈光夜景紅。欲問英雄創業跡。奈翁廟畔月如弓。

訪彼得帝古寓

同

故宮高聳水之涯。夏木園寒簇雪花。三尺堅冰平地似。橋車去訪

大王家。

威武當年轟五州。大權盡向掌中收。英雄別有彫蟲技。舊宅猶藏自製舟。

孟蘇府雜吟

同

奈此凍雲冰雪何。退軍策盡始蹉跎。休將成敗論既往。從古英雄遺算多。

千里兼程入鄂羅。蕭條無物着吟哦。斜陽積雪舊都路。古戰場荒。綠樹多。

時賴微服旅行圖

中村正直

曾無議論及經濟。王霸漠然心不關。一意欲知民疾苦。草行露宿道途艱。

那須與市

同

一箭成名決死心。精誠所貫入人深。琵琶繪畫翁孫話。紅扇舞空猶未沈。

四

讀史有感

堀 鏡 研

多々益辯世無儔。振起炎光四百秋。昨日功臣今日賊。當時誰吊准陰侯。

上田獄中作

大 庭 機

分明身到若松城。膝下奉歡笑語傾。一枕驚回在囚獄。夢窓落月杜鵑聲。

辭世

近 藤 勇

靡他今日又何言。取義捨生我所尊。快受電光三尺劍。只將一死報君恩。

三月七日遊于嵐峽。此日鳳駕發西京。第三首故及之。

長岡 敦美

戰勝兵兒驕色多。東陞事了入京華。腰間利劍餘銜在。剪取先皇御愛花。

山帶輕烟日欲曛。酒帘茶旆綺羅紛。竹間苔跡無人掃。啼鳥飛花小督墳。

山轉谿回小路斜。一川煙樹欲栖鴉。大家齊向東京去。閑却春風嵐峽花。

香港

南條 文雄

海門晴日蘸鯨濤。去向港樓呼酒槽。一路疑身在鄉國。領事館外旭旗高。

印度洋

同

印度洋中西北行。忽裘忽葛太忙生。此間舟脚知尤速。終食之間

寒暑更。

亞丁

同

日暮海天不見星。鉄欄干外望冥々。數聲警鐸夜將半。燈火隔烟認亞丁。

蘇士斯航渠

同

精神一到事皆成。無水之原舟可行。二十餘年疏鑿業。盡從烈氏寸心生。

征韓論

小栗 松露

日本今非舊日本。外交相對魯英強。果然能懲頑韓去。不免東洋一闕牆。

土耳其

同

外有耽々餓虎窺。內無良政濟民疲。媿安結果今猶昔。不獨歐東

土耳其。

琉球

同

首鼠何心持兩端。靡風恰作水萍看。征台賜艦殊恩在。不學孤松立歲寒。

書懷

同

三府一藩六十縣。三千五百万人員。較之英土元非小。只少生民自主權。

戊辰白石潛伏中作

永岡 久茂

獨木難支大厦傾。三州兵馬亂縱橫。羈臣空灑包胥淚。落日秋風白石城。

琅璫營中作

長瀬 時衡

秋入荒南沙際營。干戈滿眼爲傷情。壯心已擲班生筆。髮櫛蠻風

白幾莖。

壬戌元旦

河野顯二

生來兩度決必死。二十五年又迎春。丹心一片斃不已。再生又掃大羊塵。

咏史

大橋順藏

五胡猖獗國將傾。肉食猶言真太平。尤怪謝安出山後。更無倚畧及蒼生。

題櫻田斬奸

電發既看衆忽倒。淋漓血滴雪如華。子房博浪真迂拙。徒雇他人推副車。

無題

同

武生講文亦風流。閣腕時磨八尺鋒。近日洋夷猖獗甚。神州此氣

果知否。

君辱臣死是此時。狼眼虎額來相窺。廟堂一日苟安計。八萬陣中無男兒。

白痴相卒慕腥羶。較看下民欲祀奸。剝滅妖氛果何日。慨然撫劍問蒼天。

囚中雜吟

戸原卯橘繼明

秋中銑寒三尺刀。滔天妖霧奈難消。從今一死爲河嶽。正氣千秋護本朝。

拜順德天皇山陵

宮部鼎藏增實

陪臣執命奈無羞。天日喪光沈北陬。遺恨千年又何極。一刀不斷賊人頭。

述懷

武藤道之輔

幾歲枕戈淚不收。春風蕨驛志初酬。未乾腰劍仇頭血。要鑿金川雪國讐。

無題

藤田小四郎信

鐵衣鞍馬出鄉關。霞水笏峯幾往還。一事不成秋既老。凄然垂淚望家山。

備後三郎題詩圖

篠崎小竹

忠憤題詩感鬼神。山櫻應亦護西巡。他日南中花萬樹。開成正統一王春。

不識庵鑿機山圖

賴山陽

鞭聲肅々夜過河。曉見千兵擁大牙。遺恨十年磨一劍。流星光底逸長蛇。

加藤清正圖

摩島松南

兒女到今猶記名。唯宜壯繆比威靈。不求更學春秋傳。自有圓珠一部經。

八幡公圖

賴山陽

結髮從軍弓箭雄。八州草木識威風。白旗不動兵營靜。立馬邊城看亂鴻。

楠公別子圖

賴山陽

海甸陰風草木腥。史編特筆姓名馨。一腔熱血存餘瀝。分與兒曹灑賊庭。

述懷

中村太郎一智

愁來無酒欲眠難。起出書堂星象殘。猶有練兵籌海容。滿城明月角聲寒。

失題

猿田忠夫

十二
決然去國望天涯。生別兼至死別情。弟妹不知阿兄志。慙慙惹袖
問歸期。

榆關道中

福原和勝

壯遊恰似大鵬翔。万里忽來天一方。駐車回瞻東海水。日輪出處
是家鄉。

過山海關登角山卽長城起頭處 同

英雄行事總非常。治國安民自有方。可憫秦皇燕翼計。長城不及
法三章。

寄李容肅

宮本小一

西向清京路欲窮。十三回使往來通。白頭不畏風濤險。復駕輪船
到日東。

送榎本全權公使之魯西亞

小笠原勝修

一身許國膽如天。万里風濤駕氣船。直據地圖理疆界。銅標不用
馬文淵。

聞十月八日電報

同

月報頻傳蚌隙開。或購戰艦築砲臺。鴻章不踏則徐轍。金帛果脩
鄰好來。

送小牧子之支那

同

王師問罪駐台灣。鎮壓支那在此間。能執前言論曲直。北京諸老
有何顏。

同

池邊吉十郎

欲蹈大洋掣巨鯨。鉄腸毛膽豈求安。英雄不藉文王力。跋涉千山
萬里程。

某生訪余于阿鴨馬場寓賦一絕贈 村田新八

天涯孤客訪吾來。弄筆題詩晚宴開。一醉劇談時勢事。腥風吹盡滿樓臺。

守衛京師

小原鐵心

臣節胸間一片存。仰看天日照乾坤。熊羆麾下士三百。守護皇宮第一門。

偶成

池上四郎

忍見群邪擅國權。臥薪嘗膽幾年々。神州衰運雖如此。正氣尙存西海天。

詠日本刀

大鳥圭助

鍛冶研磨幾百回。霜降三尺玉無埃。不疑日本刀。銳利曾試蟠根錯節來。

陣中作

鳥尾小彌太

千兵殉國幾人還。百戰功成骨作山。得々先生無箇事。如何聊不報人間。

偶成

大鳥圭助

政綱紛々乱若絲。一死報恩在此時。十万軍兵多薄澆。丹心就義幾男兒。

三島三郎拭劍小影

薄井龍之

落拓江湖歸不能。凌空志氣太稜々。須臾怕忘男兒事。又拭腰間三尺冰。

讀小林德方皇朝詠史百絕

梁川新太郎

手提三尺定支那。功業雖昌祚屢遷。何似天孫叢雲劍。神光不絕億斯年。

題客舍壁

雲井龍雄

欲成此意豈思躬。埋骨青山碧海中。醉撫寶刀還冷笑。決然躍馬向關東。

贈吉田松陰

橋本左內

磊落軒昂意氣豪。夫君聞說膽生毛。想看痛飲京城夕。扼腕頻睨日本刀。

佐佐木高綱

牧 巖齋

浪花沒馬一鞭鳴。豈取先登誇萬兵。回首東雲臣有恨。恨君不聽絕流聲。

八月十八日夜夢攻諸厄利亞

藤田 東湖

絕海連檣十萬兵。雄心落々壓胡城。三更夢覺幽窓下。唯有秋聲似雨聲。

題信玄指磨扇圖

篠崎 小竹

指磨如法役精兵。不辱新羅列祖名。當日峽中無壘壁。素統一握是長城。

戊辰歲晚

安部井政治

海潮到枕欲曉天。感慨撫胸獨不眠。一劍未酬亡國恨。北辰星下送殘年。

送支倉常長行羅馬

伊達 政宗

邪法迷邦唱不終。欲征蠻國未成功。圖南鵬翼何時奮。久待扶搖萬里風。

偶作

失名氏

殺盡江南百万兵。腰間寶劍血猶腥。山僧不識英雄漢。只管曉曉問姓名。

偶成

新納 忠元

巾車二十七，春風吹入芳叢花亦紅。豈莫三分割據畧，英雄不顧草廬中。

十八

九月十三夕陣中作

上杉謙信

霜滿軍營秋氣清。數行過雁月三更。越山併得能州景，遮莫家鄉憶遠征。

欠題

山內容堂

風捲妖雲日欲斜。多難關意不思家。誰知此裡有餘裕，立馬郊原看菜花。

冬夜獄中作

關錦堆

時事關心難作眠。喚風延月轉凄然。滿胸憂憤悲歌夕，憶起文山就義年。

發江戶

水戶景山

白髮蒼顏萬死餘。平生豪氣未全除。寶刀難染洋夷血，却想南陽舊草廬。

辭世

高橋多一郎

未聽廟謨決戰和。砲烟日向武城多。今年憂甚，去年患不識，明年又奈何。

出鄉作

江藤新平

欲報邦家海嶽恩。慨然杖劍出關門。晨星落々風蕭索，毛髮衝冠壯士魂。

漫吟

小松帶力

聞說中原狼虎橫。誰先慷慨唱勤王。腰間頻動雙龍氣，欲向東天吐彩光。

辭世

大橋順藏

死屍累累鬼火青。枕頭時覺北風腥。婆心憂世夜難睡。起坐怒端見大星。

無題

森五六郎

呼狂喚賊任人評。多歲愁雲今日晴。恰是清明好時節。櫻田門外血如櫻。

題陣扇

藤田小四郎

人世何年何所成。夢中死去醉中生。誰知東海魚鹽地。講學粗通治亂情。

偶成

足利義昭

落拓江湖暗結愁。孤舟一夜思悠悠。天公亦慰吾生否。月白蘆花淺水秋。

絕命詞

藤森弘菴

伏枕期年雞骨支。每聞時事思如絲。空餘滿腹經綸術。執筆空書絕命詞。

新田義貞

副島種臣

精忠本資英雄才。勤王意氣叱咤來。八州將士迎馬拜。百年霸府隨手摧。

河中島

安藤水哉

此地管屯數萬兵。虎鬪龍戰鬼神驚。唯餘一帶筑摩水。吶喊猶留當日聲。

失題

松林飯山

世評紛々亂如絲。不是諛辭卽妬辭。磨得一團方寸鐵。自家妍醜自家知。

辭世

小川幸吉

一片和魂終未伸。二年餘再爲囚人。君恩不報死何捨。號泣皇天返海濱。

二十二

臨刑賦似後之君子

前田孫左衛門

一死如飴豈敢辭。居官半世值明時。酬君心事何須辨。只有青天白日知。

飲某樓

伊藤博文

豪氣堂々橫大空。日東誰使帝威隆。高樓傾盡三杯酒。天下英雄在眼中。

述懷

大橋訥庵

一片丹心七尺軀。維持名教在眞儒。恨他廊廟皆巾幗。大八州中誰丈夫。

囚中作

人見勝太郎

秋堂風冷雨潛々。一點禪燈客枕閑。豪氣未消半宵夢。指揮殘卒戰函山。

偶成

西鄉隆盛

我有千絲髮。幾々黑於漆。我有一寸心。皓々白於雪。我髮猶可斷。我心不可截。

辭世作

賴三樹

排空手欲掃妖氛。失脚墮來江戶城。井底癡蛙過憂慮。天邊大月欠光明。身臨鼎鑊家無信。夢斬鯨鯢劍有聲。風雨他年苔石表。誰題日本古狂生。

囚中作

榎本武揚

自歎身世與心違。胸裏汗青未治饑。天道耐疑還耐怨。人間誰是又誰非。故朋失路東西沒。老母在堂魚雁稀。入夢昨冬酣戰日。劍

華和電亂紛飛。

戊辰軍中作

板垣退助

出師未嘗汚天兵。一死只期竹帛名。彈子飛行亂如雨。喜看壯士躡登城。

訣別

梅田雲濱

妻臥病床兒泣。飢此心誓在攘夷。如今死別與生別。唯有皇天后土知。

偶成

柳原前光

慷慨悲歌寒月高。浮雲富貴付兒曹。功勳未了平生志。辜負腰間日本刀。

絕筆

前原一誠

吾今爲國死。死不負君恩。人事有通塞。乾坤吊我魂。

丁丑夏日熊本城下作

僧 五岳

四面皆賊簇似雲。城在雲中級級分。滿目今日眞火國。市塵村落一時焚。城兵如魚在釜中。城將心居泰山安。破裂丸飛烈焰迸。雲梯笑渠學魯般。忽使萬雷發自地。火牛何必倣田單。六十日間無虛日。攻守一日幾艱難。軍糧如山山亦盡。賴有我兵力能彈。雖能彈力色欲榮。千竈烟絕兵氣寒。知是都督援軍到。大喊聲隔一山。聞城兵驚地出擊賊。賊軍崩去似倒瀾。嗚呼日本國中已無城。唯有此城遮賊氛。守城者誰。谷少將。築城者是。當年鬼將軍。

北越客中作

失名氏

東風吹暖入家家。想像九衢塵裡譁。不識世間春色遍。舊爐殘火去年花。

謫居作

菅原道實

黃萎顏色白霜頭。況復千餘里外投。昔被榮華簪組縛。今為貶謫草萊囚。月光似鏡無明罪。風氣如刀不斷愁。隨見隨聞皆慘愴。此秋獨作我身秋。

逸題

西鄉隆盛

不養虎兮不養豺。亦是九州西一涯。七百年來舊知處。百二都城皆我儕。壓倒海南三尺劍。蹂躪天下七寸鞋。人若欲識余居所。長住覺城千石街。

辭世

孤軍奮鬪破圍還。一百里程絕壁間。我劍既摧吾馬斃。秋風埋屍故鄉山。

獄中作

平野國臣

龍鉄虎口寄斯身。半世功名一夢中。他日九原埋骨處。刑餘誰又

認孤忠。縱使藩人評賊生。天朝容我下忠名。十年辛苦今終解。默笑獄中待落成。

獄中作

橋本佐內

苦冤難洗恨難禁。俯則悲痛仰則吟。昨夜城中霞始隕。誰知松柏後凋心。

獄中作

吉田松陰

弟擊東獄死。兄投西海投。雖各異其地。全是皇恩酬。嗟吾身未死。感慕涕淚流。昔聞鏡月坊。死國承久秋。今見公兄弟。真箇古人儔。

辭世

久坂義助

胡雲漠々欲冥朦。天下無人護聖躬。九關他年遭吉夢。金剛山在野山中。

獄中作

高杉晉作

孤身在縲紲。胸間百憂集。只知有今朝。不知有明日。曉鴉呼屋上。旭日透獄窓。拜之空涕淚。聞之又斷腸。斷腸非恨冤。涕淚非惜命。外患迫吾君。如何此邦政。

鐵槍歌

僧 月照

天下散亂法王場。指揮如意說邊防。八面談鋒三尺喙。銳利如槍不可當。大聲不入俚人耳。聞者驚愕走且僵。但我赤心憂國誠。徹透武人金鐵腸。布施來謝是何物。傳家丈八綠沈槍。良工百鍊一條鐵。三稜磨刃凜秋霜。預期決戰攘夷日。縱橫馳突貫豺狼。善用鐵槍驍勇號。不讓朱梁王彥章。

醉中吟

折田 年秀

短身雖不滿七尺。腹中常入十斗酒。飲酒扣劍吐肝膽。肝膽何有君知否。英雄夙志鬱不開。天日藏光蔽塵埃。東魚再生世波驚。猾

吏縱利掠資財。世運頹敗人情薄。遊宴只競章句才。月露風雲豈足恃。膽畧須期天下魁。聞說方今多邊警。談笑好合掌中盃。百戰百勝有成算。毛頭寸斷膏吾兵。黠虜兒輩爭鬪情。願攀巖巖擊猛虎。願跨蒼海斬鯨鯨。

戊辰作

木戶 孝允

去歲王師迫我境。今朝孤劍入他鄉。回頭世事變如夢。一片依然男子腸。

發憤詩

久坂 義助

皇國威名海外鳴。誰甘烏帽犬羊盟。廟堂朝願尙方劍。直斬將軍答聖明。

偶成

木戶 孝允

一劍輕衣已出家。草鞋踏破路橫斜。今朝風雪信州地。千岳萬山

渾是花。

述懷

武田耕雲齋

匡山沃血澆乘輿。禮樂衣冠掃地虛。却怪文章經學士。年來畢竟讀何書。

詠史

梁川星巖

當年乃祖氣憑凌。叱咤風雲捲地騰。今日不能除外讐。征夷二字是虛稱。

失題

失名氏

殺氣衝空風雨惡。兩軍蹙處擁雷音。生死何論夷吾力。節義空知召忽心。泰山雖當一身重。滄海不若主恩深。結纓正死孤城下。聊訴衷情此一吟。

湊川懷古

折田年秀

楠公墓畔日將昏。一片黃沙五丈原。寇賊未攘大星墜。漢家興亡托兒孫。

偶成

西鄉南洲

一貫唯唯諾。從來鉄石肝。貧居生傑士。勳業顯多難。堪雪梅花潔。經霜楓葉丹。若能識天意。豈敢自謀安。

偶成

幾歷辛酸志始堅。丈夫玉碎耻甄全。一家遺事人知否。不爲兒孫買美田。

失題

建業唯期華盛頓。鬪爭獨願名勒翁。半宵提劍望寒月。今古興亡兩眼中。

同

天步艱難繫獄身。誠心豈莫耻忠臣。遙追事跡高山子。自養精神不答人。

失題

鍋島 閑叟

孤島結團意氣豪。西南決背萬重濤。黠奴若有窺邊事。羶血飽膏日本刀。

偶成

西鄉 南洲

世上毀譽輕似塵。眼前百事偽耶真。追思孤島囚中樂。不在今人在古人。

失題

纔出都門稍散襟。綠葉蔭下碧溪潄。未炊丹洞胡麻飯。朝暮穿林半隱心。

山行

驅犬衝雲度万山。豪然長嘯斷崖間。請看世上人心嶮。涉歷艱於山路艱。

肥後陣中作

山田 顯義

水色如銀月色流。砲聲漸絕夜悠悠。清風一陣吹塵去。占得求磨川上秋。

偶成

大久保利通

鳳闕煙橫日欲昏。上林空聽鳥聲喧。孤懷元抱回天志。敢解衣冠懸府門。

偶成

松平 春嶽

昨夜放晴今日雨。天時人事也相同。雪肝吐握盡分耳。號泣旻天訴寸衷。

失題

川田 剛

開化文明衆口同。愧將蛙見立朝中。好留白髮三千丈。欲橫西洋
万里風。

從聖駕供天覽

木戸孝允

邈矣二千五百年。皇威長與日月傳。方機餘暇高臺上。請見民家
多少烟。

偶成

渡邊國武

大兒華盛頓。小兒拿破翁。二子一去後。群兒皆犬豚。宇內無盟主。
七雄互併吞。寥々地球上。時事與誰論。

有感

山田顯義

世間何物保天真。立閱法書涕泣頻。應有鬼神爲國哭。登場反賊
故功臣。

偶成

伊藤博文

回首桑滄幾變遷。天恩何幸賜殘年。明時別有江湖濶。主宰一竿
風月權。

失題

後藤象次郎

天下大權歸王室。百年霸業一朝亡。國基一定是誰力。附與人間
夢一場。

書感

榎本武揚

勳閥名門悉倒戈。祖宗百戰奈山河。誰圖開化文明日。翻見亂臣
賊子多。

偶成

黑田清隆

日暮天寒雨雪飛。尺箋寸笠到柴扉。數聲夜犬送君去。似向芙蓉
山畔歸。

熊本城中之作

谷干城

久在圍城貌既癯。相看相笑撫髭鬚。花開花落不關得。只愛盆花一兩株。

述懷

中井櫻洲

落魄窮途不顧身。名分大義是精神。維新創業幾英傑。半作太平無用人。

讀佛史

谷干城

爭取緇銖費若塵。絃歌湧出滿城春。煌々金殿夜如晝。不照寒村菜色人。

書補公碑本後

賴山陽

嗚呼忠臣楠子墓。五百年後見七字。想見當時拔劍日。皆裂黑風吹血。靈天地。厲鬼果能。塵此賊。天定論定誰異議。朝廷闕旌典。藩服表死義。况鐫蕃客文。未知忠魂慰。唯有題中署。贈銜近衛中將。

正三位。猶係延元天子賜。

瓢兮歌

藤田東湖

瓢兮瓢兮我愛汝。汝嘗熟知顏子賢。陋巷追隨不改樂。盍以美祿延天年。天壽有命非汝力。聲名猶附驥尾傳。瓢兮瓢兮我愛汝。汝又嘗受豐公憐。金裝燦爛從軍日。一勝加一百且千。千瓢所向無勁敵。叱咤忽握四海權。瓢兮瓢兮我愛汝。悠悠時運幾變遷。亞聖至樂誰復踵。大閭雄圖何忽焉。不用獨醒吟澤畔。只合長醉伴謫仙。瓢兮瓢兮我愛汝。汝能愛酒不愧天。消息盈虛與時行。有酒危坐無酒顛。汝危坐時我未醉。汝欲顛時我欲眠。一醉一眠吾事足。世上窮通何處邊。

赤穗諸士之遺墨

藤田東湖

偉哉四十七男兒。大義唯期天地知。志決風飄花落日。功成雪白。

月清時。數行遺黑。留心畫。千石芳名爲世推。孟頫瑞圖常愧死。何如此帖起人恩。

述懷

三決死矣終不死。二十五回渡刀水。五乞閑地不得閑。三十九年七處徙。邦家隆替非偶然。人生得失豈徒爾。自驚塵垢盈皮膚。猶餘忠義填骨髓。嫫姚定遠不可期。丘明馬遷空自企。苟明大義正人心。皇道奚患不興起。斯心奮發誓明神。古人有云斃而已。

大織冠藤公

權達逞禍毒。跋扈亂彝倫。天篤生鎌子。智略稱絕倫。慨然殪姦兇。皇綱復一新。遺像塔峰上。功烈照千春。

述懷

蒲生君平

丈夫生有四方志。千里劍書何處尋。身任轉蓬無遠近。思隨流水

幾浮沈。笑看樽酒狂先發。泣讀離騷醉後吟。唯賴太平恩澤渥。自將章句托青衿。

慨詩

丈夫二十尙無名。學劍中休射半成。器量渾非萬人敵。不知終是一書生。

豐太閣

賴山陽

靖州在手打爲丸。黃鉞東西試錯蟠。漢將猶存奴僕面。楚人誰道沐猴冠。亂窮草莽英雄起。大志夷蠻肝膽寒。二世休嗤秦業短。混同六國太艱難。

家康

群雄逐鹿漫爭先。誰識驅除開大賢。晉國霸圖由一戰。漢家號令出三壇。建業基跡尋常地。拜胙違顏咫尺天。奕葉驩虞寧有限。金

城春暖鬱祥烟。

出鄉作

江藤新平

欲報邦家海嶽恩。慨然杖劍出關門。晨星落々風蕭索。毛髮衝冠壯士魂。

同

安積五郎

捨生取義是男兒。四海紛紛何所期。好向京城埋俠骨。待他天定勝人時。

偶感

松平春嶽

眼見年々開化新。研才磨智競圖身。翻愁習俗流浮薄。能守忠誠有幾人。

聞賴某梅田某就囚慟哭作詩

大橋訥菴

臨縛慨然能賦詩。此時幾萬泣男兒。報天大義何驚死。爲國深仁

豈願危澹庵曾封誅賊表。文山空詠憂國詞。竹窓一夜慘垂涕。家母亦驚添感悲。

飲酒樓

伊藤博文

豪氣堂々橫大空。日東誰使帝威隆。高樓傾盡三杯酒。天下英雄在眼中。

逸題

勝安房

四立彈飛下。三逢白刃圍。一收敗散卒。回首事々非。高議罵超群。崇論招衆議。東台戊辰天。涕泗橫舊衣。

偶成

仰天有所思。心遠自苦短。西風驅殘雲。千里月華滿。

同

昔人去不歸。空餘首陽薇。萬嶽誰知己。一簑換朝衣。孤舟大江晚。

滿天雪霏々。

逸題

高濤天地黑。魚多躍蛟龍。須臾雲吐月。船進喜望峰。

偶成

大久保一翁

避暄松下養殘軀。滿案有書聊可娛。唯是人間真男子。支頤獨看地球圖。

謁左中將義貞公廟

木戸孝允

寒林圍古廟。來拜淚沾襟。我亦勤王者。與君同此心。

勸學

驚馬雖遲積年多。高山大澤亦堪過。請看一掬泉巖水流。作汪洋万里波。

發鹿兒島時作

西郷南洲

壯士腰間三尺劍。欲排妖霧觀青天。不堪双淚辭親日。正是丹心報國年。

城山洞山作

慷慨多年過此身。滿腔勇氣為唯振。吶喊聲裏蹈三獄。復作洞雲深處人。

絕命詩

白髮衰顏非所意。壯心橫劍愧無勳。百千窮鬼吾何畏。脫出人間虎豹群。

戊辰作

大久保利通

陸前千里向關東。獨拜天顏恩賜洪。一夜難酬臣職重。鞠躬願致太平功。

函嶺雜詩

迂生未有尺寸功，叨辱朝恩禁闕中。早晚尋劍成夙志，深山何處訪英雄。

四十四

龜山陣中作

大海波鳴月照營，誰知万里遠征情。孤眠未結還家夢，遙聽中宵喇叭聲。

函根湖水泛舟觀月

山内 豐信

片舟乘醉夜如何，湖水微風涼氣多。大月離山高逾白，碧波樓上起金波。

全

銳鼻黃腫狀貌豪，海城六七截波濤。彈丸硝藥汝休說，識否腰間日本刀。

述懷

島津 久光

豐蘆洲裏化西洋，赫々皇威日月亡。滿襟不乾憂國淚，群言何破丈夫腸。

暮春山莊

山風陣々拂簾帷，幽檻方看竹樹滋。蜂蝶不知春色減，尋芳幾度上空枝。

逸題

鍋島 閑叟

欲鑄巨砲畏萬里，未能大舶製千艘。寒窓一夜燈前夢，仰見樞星映戰袍。

寄小原鉄心

一陣薰風宿霧收，濃山新綠入看宜。不妨平昔騰々醉，隻牛回天正此時。

逸題

伊藤 博文

四十六
豈期隣國策奇動。去向江湖遜世紛。隔獄斜陽光射浪。涉霄孤鶴翼摩雲。

偶成

山縣有朋

雪浸苦志熱腸冷。風送清香去又來。獨按地圖問燈火。瓶間帶笑一枝梅。

鴨水寓居

酒可飲兮兵可用。水聲山色入雄圖。壯遊回首渾如夢。好養餘生老舊都。

九月廿四日作

三浦梧樓

亂魁就戮事全平。十萬王師旋錦旗。今日山河砲煙絕。秋澄一百二都城。

偶成

後藤象次郎

丹心許國死與生。豪氣欲吞橫海鯨。六尺鉄槍三尺劍。秋風躍馬入新京。

逸題

大鳥圭介

八万親兵盡女兒。偷生捨義志多違。忠肝別有三千勇。却恨君王早見機。

逸題

鍋島閑臈

堂々大路久荆榛。天以蒼生付此身。腰下空橫三尺劍。胸間纔畜一團春。千年學術推元海。盖世英雄見守仁。寒月寥寥小窓底。焚香默坐養精神。

偶成

島津久光

雲霧模糊鎮九天。八州方見暴波翻。温良篤實渾成拙。浮薄悍兇却稱賢。頻歎玉金混瓦石。也怪碧海變桑田。何時更有神風起。宸

殿曠々皎日鮮。

長光刀歌

菊地 溪琴

日出之國備之前。名工良冶幾百千。獨推長光居第一。秋水磨成
白玉蓮。鋒銳奪盡羣妖魄。鉄精冷殺老蛟眠。此劍久藏熊山裡。拂
拭忽見電光紫。想見延元南巡歲。佩之千里謁天子。天意茫茫神
器移。山嶽遙遙壯士死。只恨楠公勤王秋。軍靡不能斬大讐。又恨
筑水鏖戰日。空洗刃血激河流。神物行藏元有命。嗚呼世事付悠
悠。我家淪落南海曲。十世混跡鱗介族。三尺芙蓉真無用。掛之空
壁。甘雌伏。九月秋風捲雪濤。一竿相趁撐漁篙。歸來夜宴潮海豪。
酒酣爭賦百鍊刀。林木欲折風怒號。爲浮太白歌。莫哀星斗爛干
霜氣高。

桶子峽

賴 山陽

士銜枚馬結舌。桶峽如桶雷。壁裂驕龍喪。元敗鱗飛撲面腥風雨。
耶血一戰始開撥亂機。萬古海道戰氛滅。唯見血痕紅絞纒。

蒙古來

筑海颶氣連天黑。蔽海而來者何賊。蒙古來。來自北。東西次第期。
吞食嚇得趙家老寡婦。持此來擬男兒國。相摸太郎膽如甕。防海
將士人各力。蒙古來。吾不怖。吾怖。關東令如山。直前斫賊。不許顧。
倒吾檣。登虜艦。擒虜將。吾軍喊。可恨東風一驅附。大濤不使羶血
盡膏日本刀。

日本男兒歌

片山 東海

風雷叱咤幾英雄。霜鏑影冷日本刀。阿爹壯歲奏偉功。我亦誓國
無餘念。誓爲祖國分。亦可豈與鼠輩事。苟娛榮光不敢讓。阿爹誓
爲祖國効。此軀此軀常期超。人那願爲武夫尋裔胄。昨夜夢中侵。

敵軍硝烟彈雨獨健鬪。健鬪未終夢先覺。喇叭一聲何處來。憤然
蹶起特不惡。擊節昂然叫快哉。恰看軍旅過我鄉。威嚴龍躍身無
暇。最羨輕騎真特物。調兵講武各歸舍。我見之兮茫然久。慷慨何
得開。雙眉男兒遺感君知否。此軀未得報國期。風雷叱咤幾英雄。
霜鏢影冷日本刀。阿爹壯歲奏偉功。我亦誓國無餘念。

春日田家

江藤 新平

欲伴犁鋤脫世塵。村居十歲古江濱。幸逢縱馬放牛月。偏作傍花
隨柳人。淡月動搖南浦暮。閑雲來往北郊春。耘罷後爲何事。兀
坐思詩覺有神。兔烏荏苒促人奔。烈士壯心誰共論。才短四方謀
未用途窮千里志。猶存映窓雪色春。先動臨水梅花日。自喧要爲
聖朝明大義。隱憂耿耿向中原。

詣林子平之墓

伊藤 博文

昇平三百年。人皆高枕眠。借問海內士。着眼誰最先。日本橋頭水
直連龍動。天邊防豈可忘。巨艦非漁船。精神凜如在。確言千古傳。
我來吊墳墓。懷古淚潸然。

偶成

木戶 孝允

山依舊而秀。水依舊以漫。孤松拂雪立。瘦菊經霜殘。年光容易盡。
人間行路難。

題櫻山招魂社

伊藤 博文

櫻山枕碧海。羣岱擁作圍。氣象千萬變。朝嵐兮夕霏。回憶當年事。
血淚滿襟衣。外寇犯邊海。內訌迫宮闈。天下如亂麻。王道奈式微。
長防彈丸地。率先揚義旂。破敵於四境。掃賊于京畿。劍光如電閃。
砲彈如雨飛。民傾產不顧。士視死如歸。邦君王佐器。誠忠排群議。
勤王由祖訓。正氣爲發揮。一朝遭國難。上下議所依。斷行鬼神避。

先天々不違。皇政終復古。赫々仰天威。草木欣榮色。日月生光輝。嗚呼忠義士。功烈何巍巍。英靈鍾此地。衆目共瞻睇。芳名傳千歲。長與櫻花翻。

日本刀

中島子玉

置鞍可比長白巔。投鞭可絕鴨綠川。日本刀斬日本狗。春燕巢林人盡走。神兵當年遠。飛鏢敵崩角。降刃不膏。九泉倘遇卑彌呼。龍顏定怒汝實獠。斬日本狗猶可恕。汝何蟻我日本刀。

棄兒歌

斯身斯飢兒不育。斯兒不棄斯身飢。捨是邪不捨非邪。人間恩愛斯心迷。恩愛不禁。無情淚復弄兒面。多苦思。焦心頻囑良家救。欲去不忍別離悲。橋畔忽驚行人跡。殘月一聲杜鵑啼。

獄中作

未廣鐵腸

幽窓伸膝好安眠。放馬華山又幾年。海外構兵非策得。門前有虎要防全。號旗映水流。旭日祝砲轟雲。迸黑烟。聞說雞林已通款。新聞偶自獄丁傳。

失題

久阪通武

手欲掃妖熒。蹉跌乍謬策。一死何足信。正路居安宅。遺唸何悲愴。讀之血淚赤。吾曾過公墓。風雨鎖苔石。唯公耿々者。千古照竹帛。

述懷

雲井龍雄

生不聊生死不死。呻吟聲裡仆又起。立馬湖山彼一時。雄飛壯圖永已矣。我生有涯愁無限。悠悠前途果如何。咄咄休說斷腸事。滿江風雨浪生花。

巳巳五月奉勅赴東京

陸奧宗光

壯志未酬餘短身。斯行何又避辛酸。政治他年冠千古。皇道如今

屬維新。天下安危歸冷眼。邦家柱石豈無人。一封泣草濟時表。不負此君與此民。

五十四

霖雨餘歎

副島種臣

壯年氣魄掣奔牛。老去詩篇蚯蚓愁。天自今春謝鳥影。水吞數郡躍蛟蚪。因數斬怯當年務。耳聽噪蟬七月秋。梟獍魑魅皆有黨。虞朝威鳳日悠悠。

七月既望

平州白月暮紛紛。萬里長天斂濁氛。好納新涼歌白月。放開濶眼睨青雲。銀河津筏何邊問。烏鵲驚飛半夜聞。羨殺大蘇多感慨。江山景象入瑤文。

新田義貞

精忠本資英雄才。勤王意氣叱咤來。八州將士迎馬拜。百年霸府

隨手摧。讒言易入古所嘆。貪人數類國頻災。守死竭盡宗黨力。山川滿地骨堆々。

百鬼夜行

吉田松陰

陰燐照地翳復明。丑夜草木眠無聲。腥風迸來風一道。鬼官肅々作隊行。傘蓋當中僧相國。三目注人爛生色。紅彩小鬼小如兒。執技持燭從其側。是誰氏女白衣裳。皓齒粲然噴血香。輓轡作首伸復縮。一伸忽爲十丈長。鬼兮鬼兮何多趣。形影迷離半雲霧。嗟哉鬼外有鬼人不知。白日橫行紛無數。

源賴光誅鬼圖

巢窟倚山石爲柱。鉄門當險橫。方弩中有老鬼爲之王。大鬼小鬼皆相輔。血酒肝膾充其食。漁奪生靈麗不億。白骨支牀高於山。腥風衝雲天日黑。其誰誅之者源將軍。至今兒女說奇勳。手揮寶刀。

斬鬼首。威武宜哉稱絕群。但怪歸來太踈踏。屈身且作相門客。君不見山鬼猙獰八荒。不及相門勢張皇。

護良親王

松本奎堂

帝子吞冤。潛土窟。稜々鶴骨鬢々髮。幽燈影青微吐煙。天地長不見日月。諫父元同扶蘇賢。受罪翻似卞和刑。情氣填的難自遺。謹聲時與梵唄發。何物小臣逞逆威。手抽白刃從後突。直擠帝子騎其上。欲刺早被利齒齧。利齒齧刀刀鋒缺。再刺洞胸。刀皆血。面目如生終不瞑。畏靈持首投林樾。五百星霜何忽々。欲尋遺跡無尺碣。野草埋路高於人。其中纔存一小穴。土人傳言此卽是我來拜跪如親謁。懷起含冤入地心。不覺失聲成嗚咽。土窟冤兮長不消。紫苔如血地上滑。君不見千古有同遺憾。湊川風雨越山雪。

楠公

藤田東湖

我慕楠父子。雄畧古今無。建回天業。感激忘其軀。廟堂遂無算。乾坤忠義孤。空留一片氣。凜々不可誣。

新田左中將

賴山陽

左將忠貞。天地知。曾沈寶劍。感馮夷。軍中一范驚。賊膽河北二顏連。義旗誰道。晉藩無亞子。人傳楚帳有虞姬。大原遺薛離。凋落華胃遙々久。益滋。

題醉鍾馗圖

前塚綱

眼光如電髮如蓬。三尺之龍躍掌中。皇帝所勅者誰子。終南進士姓是鍾。叱咤風雲喝一喝。山石爲之鳴。欲裂魑魅奔逃魍魎藏。須臾鐔鏗濺腥血。誅鬼不誅人似鬼。好男如汝無益耳。馗也馗也且醉眠。有罪無罪天所視。

詠日本刀

大鳥圭助

鍛冶研磨幾百回。霜降三尺玉無埃。不疑日本刀銳利。曾試蟠根錯節來。

五十八

獄中作

秋月胤永

行無與兮歸無家。國破孤城亂雀鴉。治不奏功戰無畧。微臣有罪復何嗟。聞說天王元聖明。我公貫日發至誠。恩賜赦書應非遠。幾度額手望京城。思之思之夕達晨。愁滿胸臆淚沾巾。風淅瀝兮雲慘愴。何地置君又置親。

感覺作

德永久次郎

萬艱經來膽益豪。丈夫身命輕於毛。一輪明月中秋夜。照看腰間三尺刀。

陣營中作

別府新助

植木嶮田原坂壘。崎嶇百戰草皆殷。義師東定中原後。踏破朝鮮

山又山。

無題

自古誰無死。唯存俊傑名。一杯今日興。千歲識風聲。

偶成

松本圭堂

舉世如蟬啞。國事是耶非。和戎策已定。未歷白登圍。

兒島高德

齋藤監物

踏破千山萬岳烟。鸞輿今日到何邊。短簑直入虎狼窟。一七深探鮫鱈淵。報國丹心嗟獨力。回天事業奈空拳。數行紅淚兩行字。付與櫻花奏九天。

十三夜

藤田東湖

屏跡連旬磔水頭。悲風滿目動高秋。秋闌桂樹花方老。霜冷草虫聲更幽。雙袖空濺憂國淚。一樽何問繼華遊。中宵強向天涯坐。無

五十九

限清光照旅愁。

書 憾

雲井龍雄

縱令不有拔山力。男兒寧無雖秦寔。傷時憤世非好事。丹心元欲報皇國。皇國英風尙未墜。醜虜何敢許縱恣。天津之鑑索非遠。城下之盟久斷耻。君不見大和國。曠昔全盛時。雄氣赫力威四夷。思之撫劍空鬱勃。霜寒羽陽城外月。

秋夜書懷

丸毛 樵峰

成敗有時何敢驚。是非一任世人評。月寒過雁歸霜夜。漏聲孤牀對短檠。報國丹心徒負罪。功名素志苦難成。關情偏是鄉親事。依舊夢魂落駿城。

絕命詩

國分新太郎

元期萬死復何悲。唯恨神兵未攘夷。魂魄已歸天與地。七生此世

護皇城。

獄中作

兒島 燭

愛讀文山正氣歌。平生所養顧如何。從容只待就刑日。含笑九原知己多。

獄中作

大庭 恭平

家山遠隔路三千。身就幽囚徒自憐。今日見衣如見母。朝々着得拜東天。

就囚時作

杉田 定一

既以此身供自由。死生窮達又何憂。丈夫心事人知否。山自青青水自流。

獄中作

酒井傳二郎

回天策蹶事皆空。名實不分賊與忠。顏杲文山唯我友。古今雖異

義相同。

芳野懷古

松本圭堂

滿山櫻樹映春晴。想見六師曾列營。日月爭光兩天子。衣冠正位，
幾公卿。鸞輿不返烏頭白。草賊難除魚尾鱗。欲問當年南狩事。落
花風外響華鯨。

述懷

藤田小四郎

從來世事去悠悠。空使英豪齊素謀。紅艷辭枝風裏散。翠烟繞樹，
雨餘浮。忽醒三春京洛夢。更添爐邊萬里愁。今日何人護天子。攘
夷鳳詔淚難收。

辭世

梅田雲濱

遙想海隅擁腹門。蒼波何日洗彼冤。雲遮白日光明滅。潮蹴青天，
勢吐吞。萬事關心誰知意。十年辭國獨勞魂。憐君酌酒強含笑。須

憑朝廷雨露恩。

逸題

高橋庄左衛門

賣國奸臣謀日新。無由號泣訴天神。本朝恢復知誰在。多是同朋
獄裡人。

人見淡雲

只合是非期百年。衲衣辭世亦聊然。迂儒多抱陳編老。壯士元羞
瓦礫全。邊海風腥鯨鯢躍。帝閣雲黑旆旗懸。男兒自有男兒志。一
任惰懦呼大癩。

獄中作

村井修理

攘夷大策仰皇猷。常苦奸臣誤遠謀。三十三年懷志操。七旬五日
雜俘囚。英雄心事生來定。男子功名死不休。今日試提世間是。茫
々雲霧塞神州。

擁鼻黃昏坐。獄奴未點燈。寒風時透骨。衣袂冷于冰。

絕命詩

大橋 訥庵

尊王攘夷豈無時。何計危言却被疑。今至蓋棺吾已矣。秋津洲裡一男兒。

無題

桐野 利秋

人間何日攬長眠。思國思家淚泫然。半夜開窓望碧落。妖雲一豔壓東天。

逸題

梅田 雲濱

一木豈能大厦支。此時不道世情非。賤臣有向南山去。獨向北方拜帝闕。

全

高臥悠悠二十春。山中草木是知人。今朝有故辭猿鶴。欲學釣魚東海濱。

無題

篠原 國幹

有雨有烟又有雲。中原万里亂紛紛。腰間秋水今方試。掃了妖邪。謁國君。飲馬綠江果。何日一朝事去。壯圖差。此間誰解英雄恨。袖手春風詠落花。

新春

僧 月 性

荒村迎歲不知新。雨雪猶寒餓葷人。獨有梅花魂未死。東風吹返一枝春。

送別

兒兵亦動故園情。臨別悲歌問去程。海陸三千餘里路。山河一百二。都城空。洋月白孤帆影。古驛霜寒匹馬聲。南國近多風浪警。知

君鉄劍匣中鳴。

失題

七里江山附犬羊。震餘春色定荒涼。櫻花不帶腥膻氣。獨映朝陽薰國香。

城山陣營徒然之詩

西鄉南洲

夜深秋意動。隣比寂無聲。幽澗獨調瑟。松風相和清。

同洞中之詩

慷慨多年過。此身滿腔勇氣爲誰振。吶喊聲裏踏三嶽。復作洞雲深處人。

壇浦懷古

末松青萍

刀折矢盡。可以已。播遷求活。欲安死。抗言苦諫。遂不聽。阿兄孱弱。何足恃。膽氣吾愛新納言。優爲平宗第一士。九重城闕委烟塵。彩

獨西飛稚龍巡。窮天極海成何事。東國男子薄御船。崖山風波衛王逝。獨有世傑是人臣。多殺無益徐爲計。殺身亦足以成仁。請看檻車白晝赴東者。單衣夜夕庇子眠。

加切磋。是所願望。

橫井小南

家各東西千里隔。相逢一笑吐肝膈。滿甕之酒發春醅。併嚼道味眞爲適。吾輩從來非文士。動輒意氣論爲癖。上自三代下明清。及我皇朝治亂迹。如是而治如此亂。此乃得術。彼可惜。究竟天下明君少。是以亂日滿史冊。雖然爲臣豈尤君。彼尤君者。心不赤。赤心忠愛自有道。徐搭君臣是臣職。慷慨悲憤氣卽氣。恐於國家無裨益。炎漢朱明亡。可徵何事君子心。甚迫嗚呼。臣道豈如此。一點忠愛發魂魄。其容靄然如春風。其神凝然如金石。治亂只是盡我心。不與群小爭黑白。聖賢之教如此耳。萬古臣道不可易。而在我輩

動狂氣。一言一行。渾被役。忠愛仕君何在哉。甚耻頑顏對典藉。良會知多不易得。何說風月弄文學。諸君應各有所思。試披肝膈向坐擲。

丙寅歲旦

木戶孝允

防長亦是王臣人。勤王誰不盡精神。我君冤罪實有歲。臣民遙只窺京信。時到新陽憾却切。百方蒼生未知春。

偶成

西鄉南洲

人生元不長。此身豈其輕。計利應計天下利。求名須求万世名。況當虎吞狼噬際。齷齪無用守其疆。青山到處骨可埋。唯爲一朝卜枯榮。勇兒所要在機先。好揚汝鞭試啓行。一韋纜西大陸通。鳴絲送處崑崙迎。秋草漸老馬晨嘶。天際無雲地茫茫。嗟呼予二十七將終。一世之半。肺肝其能何處傾。感來睥睨長風外。月白東洋照。

西洋

放言

山内豐信

亢龍失雲不得上。小鳥生翼欲冲天。人君亦有雲與翼。日使群臣忠且賢。忠賢已進姦雄退。姦殫賢舉君臣全。忠賢務察君明暗。有雲有翼君安然。上下通暢雲路豁。結纓節士簇馬前。縱令姦雄裂。眦起。我王偃息獨閑眠。

去婦

中江篤介

一拳形骸類浮鷗。悲喜何須煩口頭。宿雁無蹤秋色去。居然大月滿汀洲。

辭闕

西鄉南洲

獨不適事情。豈聞歡笑聲。雪羞論戰畧。忘義唱和平。泰檜多遺類。武侯難再生。正邪今何定。後世必知清。

方外草堂書懷

山內容堂

七十

吾本海南人。負性極狂愚。曾被州人罵。決然去粉榆。閑遊幾裘葛。醉餘且誦書。所學是何道。所師果誰歟。孔孟說堯舜。當時笑爲迂。群議儻分意。生涯欲何如。

鎌倉曲

江藤新平

鎌倉有高臺。灼灼玉欄回。芳宴春宵短。明月照玉杯。美人歌且舞。瓏々冰玉姿。清商從聲發。長袖從步開。淡々清酒綠。金盤佳肴堆。佳肴與絲酒。不如美人情。美人情何深。唯言他生因。不厭豫山遠。何處不復臻。不厭豫山險。何處不隨行。唯得事夫君。不厭苦與辛。

勸道歌

鳥尾小彌太

三界是火宅。人生一刹那。何不求解脫。名利自爲羅。醉生又夢死。畢竟窮苦多。六度茲濟我。三毒如干戈。根定乾坤重。機熟諸法和。

化生華嚴界。游戲其如何。手掬眞如月。足踏法海波。如意現菩薩。所應降外魔。開口遣化佛。彈指醫百痾。寄語佛弟子。示汝勸道歌。居士非居士。釋迦非釋迦。唯心卽淨土。孤身是彌陀。文句勿求法。胸中伏毒蛇。禪定莫證道。頭上有鉄枷。

碧蹄驛

賴山陽

平壤城。碧蹄驛。明軍乘勝如捲席。一隊壓尾萬刀橫。斫人如草。刀有聲。據鞍海外供。願指老臂一攘聊。復爾噫。不使此翁執鼓旗。兩度都付乳臭兒。

瑞鷓鴣

賴杏坪

五條橋上一神童。走若流星飛若風。擁面提刀知底物。三千徒裏武藏坊。拋刀服了神通術。自此終身約僕從。芳野安關多少險。郎當扶得舊牛郎。

失題

雲井龍雄

沾酒休沾淡泊酒。選友須選淡泊友。欲止即止行。即行物之羈絆。豈敢受。吹我簫。兮彈我琴。清音洗耳。兼洗心。看來迷路猶未遠。欲還其車。須及今。鳳兮之歌愛乎心。是非焉足容我喙。抱月為枕雲為衾。悠然高臥紅塵外。

觀白虎隊自盡畫有感

馬島杏雨

正是慶應戊辰年。八月念三風雨晨。鶴城東北竟難禦。苦戰不利。石筵關。風沙曝骨幾千士。就中最憐勾虎群。決然敢辭阿爺膝。恩愛兼謝慈母前。齡未弱冠能奮戰。大厦一柱欲支難。童帥集童傳一語。彈丸硝藥共力殫。正奇應變策亦極。自是直欲倍我君。彼恐早已絕前路。決皆無處不敵軍。礮聲轟々萬雷震。猛火燄々漲黑雲。縱與君父不共死。馬革裹屍在此辰。十有五人應自刃。遙向鶴

城淚潛々。慙慙盥漱齊。稽首從容就死瀧澤山。我知其實再觀畫。感淚依舊灑衣巾。見死如歸亦何壯。忠孝千秋髮衝冠。有我公而有此父。有此父。有此子孫。乳臭男兒猶存義。一死容易報君恩。嗚呼堂々肉食大男子。何顏能見此忠臣。

濱崎懷古

江藤新平

龐船映日有光輝。數万天兵張虎威。千古皇猷向誰問。茫茫長海鳥空飛。

失題

雲井龍雄

沾酒休沾淡泊酒。選友須選淡泊友。欲止即止行。即行物之羈絆。豈敢受。吹我簫。兮彈我琴。清音洗耳兼洗心。看來迷路猶未遠。欲還其車須及今。鳳兮之歌愛乎心。是非焉足容我喙。抱月為枕雲為衾。悠然高臥紅塵外。

觀白虎隊自盡畫有感

馬島杏雨

正是慶應戊辰年。八月念三風雨晨。鶴城東北竟難禦。苦戰不利。石筵關。風沙曝骨幾千士。就中最憐句虎群。決然敢辭阿爺膝。恩愛兼謝慈母前。齡未弱冠能奮戰。大厦一柱欲支難。童帥集童傳一語。彈丸硝藥共力殫。正奇應變策亦極。自是直欲倍我君。彼恐早已絕前路。決皆無處不敵軍。敵聲轟々萬雷震。猛火燄々漲黑雲。縱與君父不共死。馬革裹屍在此辰。十有五人應自刃。遙向鶴

城淚潛々。慙慙盥嗽齊。稽首從容就死瀧澤山。我知其實再觀畫。感淚依舊灑衣巾。見死如歸亦何壯。忠孝千秋髮衝冠。有我公而有此父。有此父有此子孫。乳臭男兒猶存義。一死容易報君恩。嗚呼堂々肉食大男子。何顏能見此忠臣。

濱崎懷古

江藤新平

龐船映日有光輝。數万天兵張虎威。千古皇猷向誰問。茫茫長海鳥空飛。